

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が2例あり、血清型及び毒素型は、共にO157 VT2です。本年の累積報告数は83例で、平成11年～平成19年の同時期の累積報告数(26～54例)と比較すると、最も多くなっています。本年の型別報告は、O26(VT1)31例(37.3%)、次いでO157(VT1VT2)22例(26.5%)、O157(VT2)16例(19.3%)の順となっています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数が0.20で、過去4年平均値(0.07)に比べ多い状態が続いています。
- インフルエンザの定点当たり報告数は0.10(7例)で、第43週から連続で報告されています。

## ◆ 今週のトピックス: <水痘>

- 水痘の定点当たり報告数は0.59で、第41週以降、増加傾向を示し、今週が最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- 二類:結核 2例(喀痰塗抹陽性 1例, 無症状病原体保有者 なし)  
【1月以降の累積報告数 327例(喀痰塗抹陽性 102例, 無症状病原体保有者 27例)】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2) 2例【1月以降の累積報告数 83例】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.10	7
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.22	173
	② 水痘	0.59	24
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.37	15
	④ 流行性耳下腺炎	0.29	12
	⑤ RSウイルス感染症	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

### 病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
アデノウイルス3型(2)	かぜ症候群(第26週) 咽頭結膜熱(第26週)	NP
コクサッキーウイルス A4型(1)	ヘルパンギーナ(第29週)	NP
コクサッキーウイルス B4型(1)	かぜ症候群(第33週)	NP

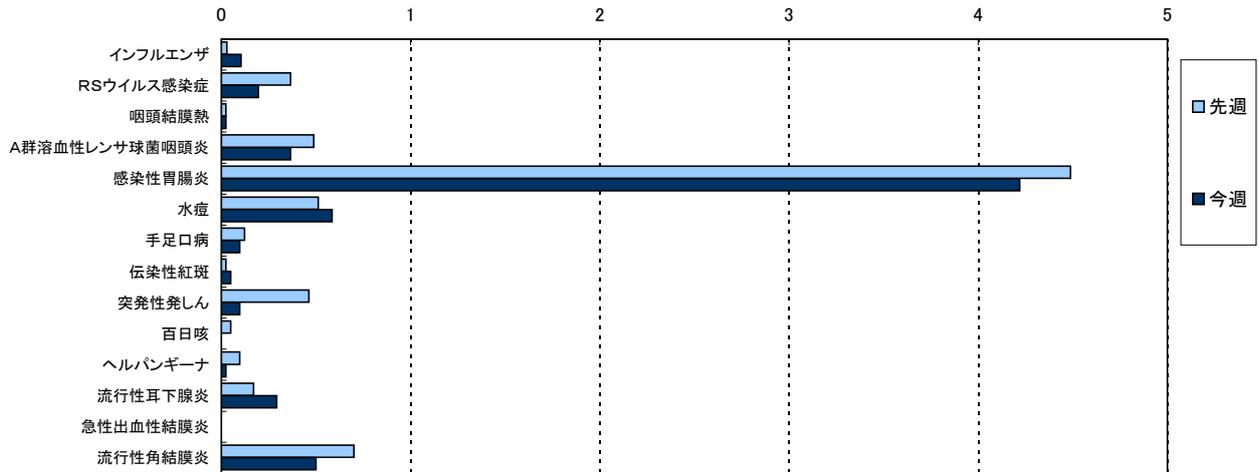
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <水痘>

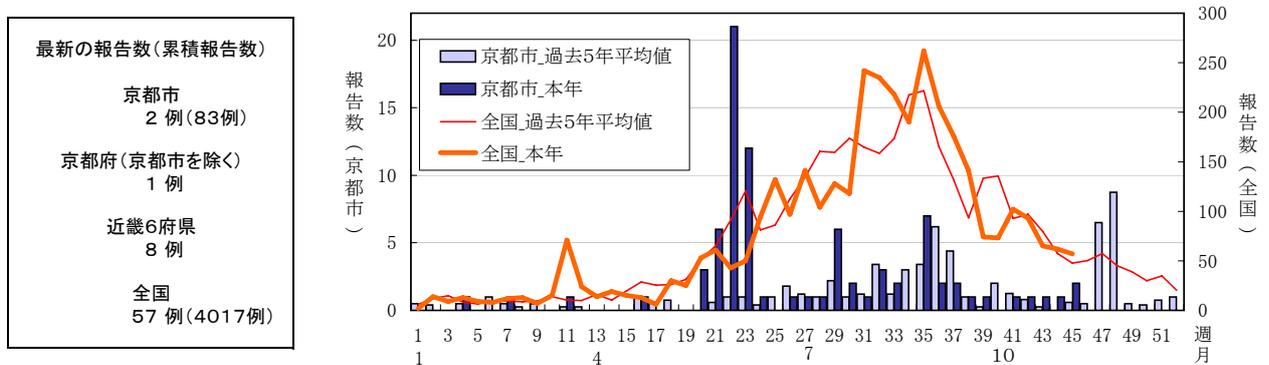
(注) 京都市のデータは、平成20年11月14日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第45週)と先週(第44週)の定点当たり報告数の比較

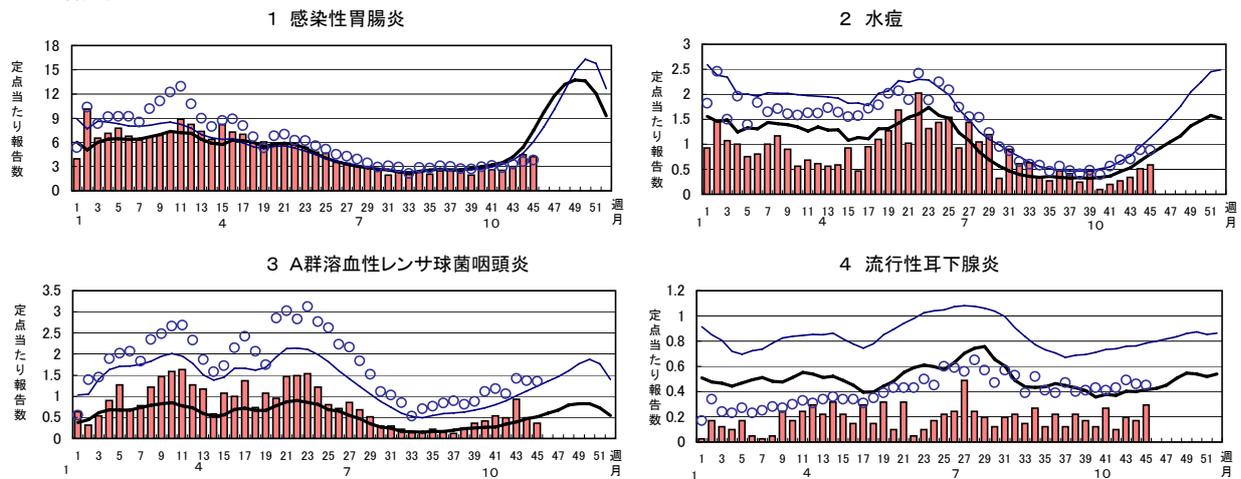


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

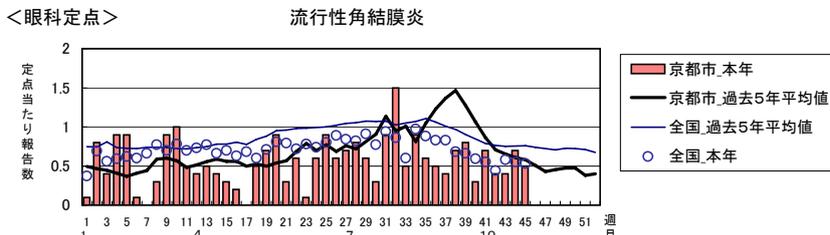


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



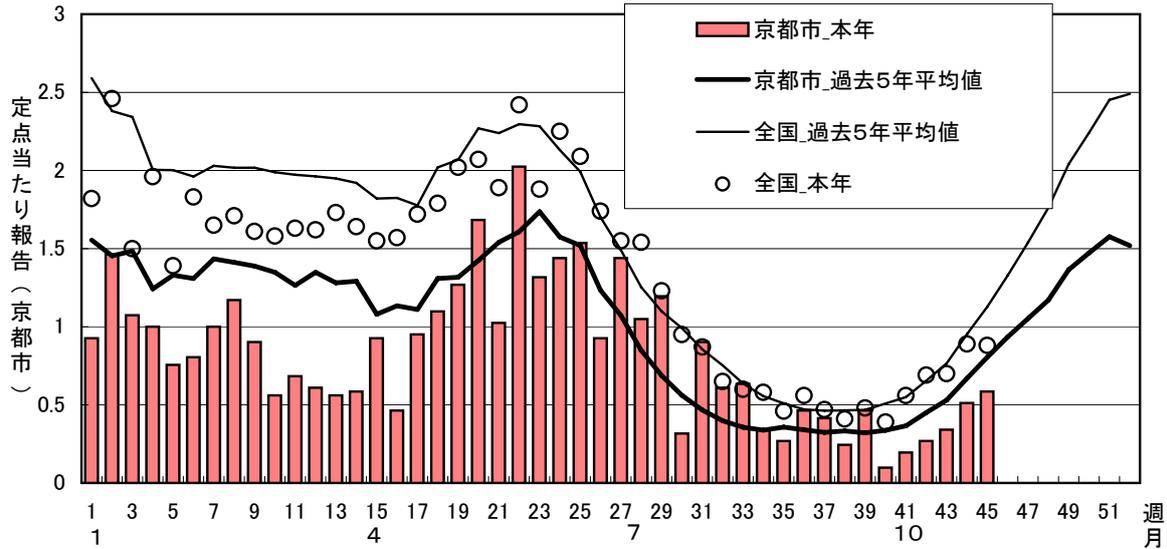
# 今週(第45週)のトピックス: <水痘>

水痘の定点当たり報告数は0.59で、第41週以降、増加傾向を示し、今週が最も多くなっています。

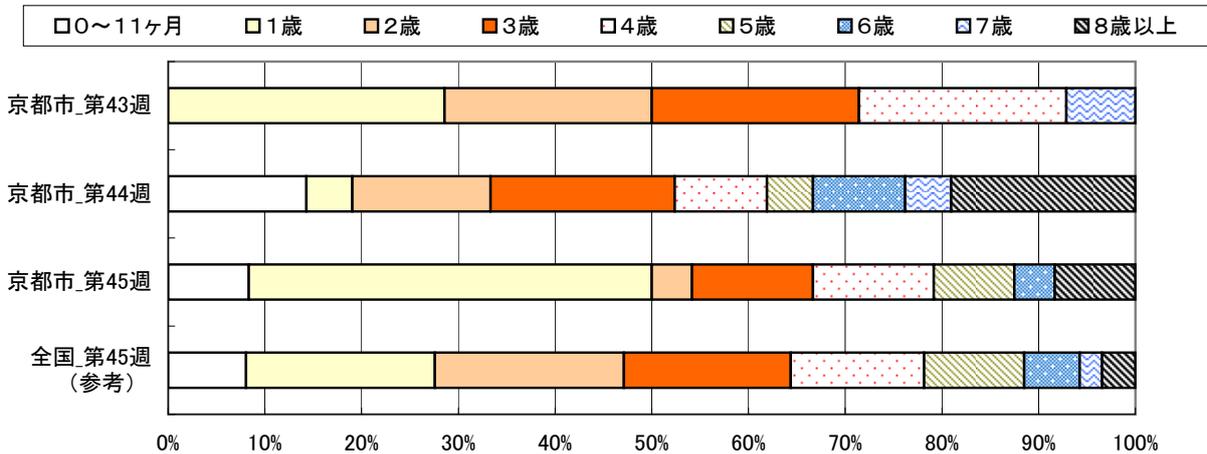
年齢階級別割合をみると、1歳の割合が41.7%(10例)を占めており、最も多くなっています。また、第43週～第45週では、各年齢の占める割合は、ばらつきがあるものの、7歳以下の割合が約80%以上を占めています。

行政区別にみると、ほとんどの行政区で報告があり、特に南区での報告が、第44週以降多くなっています。

全国及び本市の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合(第43週～第45週)



行政区別定点当たり報告数(第43週～第45週)

